

## 日本語ボランティア活動と外国人への情報提供 — 2

先号No.55で「日本語ボランティア活動と外国人への情報提供」を取り上げました。その中で「地域の日本語ボランティア教室は情報の受け渡しの場所となりうるか」に関連しTNVNは会員団体78団体を中心に協力会員にも協力をいただき、アンケート調査を行い33団体(47枚)から回答がありました。その結果の一部を報告します。

### 教室の基本姿勢

	3	単に日本語学習を支援する場よりもさらに加えて日常生活・習慣・文化・参加者同士の交流・コミュニケーションの場と捉えて活動をしています。
+	2	
	4	
+	10	
	5	
+	9	
	6	

日本語学習を支援する場  
日本語学習支援と日常生活・習慣・文化  
日本語学習支援と参加者同士の交流・コミュニケーション  
その他

### 学習者からどんな情報を聞かれますか

緊急時の対応	1	教育・育児・子育て、医療・税金、イベント・観光、が上位ですが中でも保育園・幼稚園から学校進学、症状に適した病院・母語の話せる病院など身近な情報が求められています。
行政・届出と手続き	10	
税金/医療と保険/福祉	5	
教育・子育て	18	
出産・育児	9	
食文化・買い物	10	
観光・イベント	12	
地域社会と交流	4	
生活ルール習慣	7	
その他	28	

### 学習者に聞かれることや情報に対してどのような対応をしていますか

知っている限り伝える、出来る限り具体的にアドバイス、から専門・行政等の該当部門を紹介するなど積極的に対応をしています。

### 学習者に対してどんな情報を知らせていますか

緊急時の対応	4	イベント・観光が圧倒的に多く、緊急時の対応、行政・届出・区市報、医療等を知らせる一方、育児、教育等は非常に少なく限られている。
行政・届出と手続き	3	
税金/医療と保険/福祉	3	
教育・子育て	0	
出産・育児	0	
食文化・買い物	6	
観光・イベント	37	
地域社会と交流	0	
生活ルール習慣	0	
その他	13	

### 学習の場でどんな行政の生活情報を知らせていますか

緊急時の対応	12	生活ルール、緊急時の対応、出産・育児、教育・子育て、医療、法律など回答団体の8割が何らかの方法で行政情報を知らせようと心がけているが、多くはボランティア個人で保管し、備え付け場所、保管場所のないのが現状。情報の保管・掲示等の場所がある恵まれた団体は極く少ない。
行政・届出と手続き	1	
税金/医療と保険/福祉	5	
教育・子育て	5	
出産・育児	6	
法律	5	
余暇	3	
生活ルール習慣	13	
観光・イベント	0	
その他	15	

# 中国で日本語ボランティア

寄稿

町田日本語の会 深沢 幸代

天津市のN大学日本語学科の教師として赴任することになり、9月の新学期に合わせて日本を後にしたのは、一昨年夏の暑い盛りだった。渡航費、渡航にかかわる一切の費用は全て自分持ちのボランティアである。勿論、台所こそ共用だったが、トイレバス付きの外国人教師用の宿舎が提供され、食事だけを自分でまかなえばよかった。しかもほんの僅かだが、期待していなかったお給料もいただけることになった。

外国人教師の授業は規則で週14時限が限度で、私も最多の14時限を受け持った。ピンチヒッターで「読解」を数週間担当したことはあったが、「会話」と「ヒヤリング」がメインである。教科書は大学指定のもので、本科生の「会話」の授業は、日本で使ったことがある「新日本語の基礎」だったので、準備が楽だった。しかも文法は中国人の先生がしっかりと基礎を教えているので、改めて教える必要はなく、発話の練習により多く時間をさくことが出来た。

又社会人向けの授業は本科の授業と違った楽しさがあった。採点の必要がなかったので、教師の裁量で工夫し、教科書のテーマに沿って日本事情を話す事が出来て、これは学生が最も集中して私に耳を傾ける時間であった。

前期後期をあわせて25～6人のクラスが二つ、17～8人のクラスが二つ、その他に社会人クラス三つを含めて約150人の学生と接することになったが、名前を覚えるのに結構努力が必要だった。王さん、張さん、李さんなど同じ姓が何人かいるので名前も同時に覚えなければならない。しかし努力の甲斐あって、多くの学生と親しくなれて、下校後キャンパスや街などで会えば気軽に声かけが出来るので、私も何かと生活面で助けてもらうことが出来た。

概して学生はとても真面目でよく勉強する。社



会人学生はそれぞれ事情があって遅刻もあるし、私語も多い。しかし本科生は原則としてキャンパス内の寮に住んでいることもあって殆ど無遅刻無欠席、私語もなしである。

一週14時限の授業、その準備と採点、時々放課後の学生の質問に答えること、それ以外は全部自分の時間。早朝の太極拳教室に通い、語学留学生向けの中国語講座を聴講し、小旅行もした。主婦のいない日本の我が家の惨状？は見えない。遠くにいてどうしようもないのだから、考えないことにした。

日本語を教えることに関していえば、大学と地域の教室という違いはあっても基本的に日本での活動と大差はない。むしろ、学習者のレベルや背景（全員が一定の知識を有した同年齢の中国人）が同じなので、中国での授業の方がずっとやりやすかった。

1年の任期を終え帰国したのが昨年の夏。真夜中大荷物をかかえて我が家の玄関にたどり着いたその時、私の一年間のページが閉じられた。逆カルチャーショックにみまわれながらも、ようやく私の日常が戻ってきた。今、この1年間の楽しかった生活を与えてくださった全てに感謝している。何よりも素晴らしい還暦のプレゼントであった。

# マレーシアの 日本語教育事情

まちだ地域国際交流協会（MIFA） 片野 千浪

16年に渡る二度の海外生活から戻って町田に落ち着き、3人の子供達も大学を卒業してそれぞれに就職、結婚、海外勤務と、わが家から巣立っていきました。私もMIFAの一員として外国の方々に日本語を教えるボランティアを始めました。

本社に戻った夫が定年を迎える年の初めに、文部省から会社に「マレーシア国際交流ディレクター」の公募の知らせがあり、仕事で30代にマレーシアに行っていた夫は勧められて書類と論文を提出しました。

すると文部省から「一切の事前講習を必要としないので、すぐにもマレーシアへ国際交流ディレクターとして赴任するように」と委嘱状が届き、夫は定年も待たずにクアラルンプールへと出発し、私も3ヶ月後に合流しました。

クアラルンプールには日本企業も多く、千人近い小・中学生が日本人学校に通っており、日本人会館では、日本人会がマレーシアの人々に初級、中級、研究科とレベル分けした日本語クラスを開設しておりました。偶然にも私の大学の先輩が講師陣の中にいらっしゃり、すぐにも研究科を教えに来てほしいと打ち合わせ会に連れていかれました。この様にして研究科の受持ちが決まり、次週から授業をすることになりました。

研究科の生徒さん達に紹介され、生徒さん達の自己紹介もあり、私より若い方は日本人と結婚している韓国の女性だけで、同年輩が年長者で、席を決めるのに「耳の遠い人は前列」と思いやりのある発言が出る程、平均年齢の高いクラスでした。それに漢字で教育を受けた華人系の人ばかりでしたので、何を教材に使うべきかで悩みました。

全員が自分の考えていることを発表したい人ばかりでしたので、途中から中国語に移行してしまわないように、まず自分の考えを日本語にして、それを皆の前で発表してもらうことにしました。そして、マレーシア全土から参加者が集まる日本語スピーチ・コンテストに目標を定めました。マレーシアはマハティール首相の東方政策（ルックイースト）の効果か、若い世代の日本への関心度も高く、毎年200名近くの国費留学生が日本全国の国立大学へ来ています。日本語能力テストの2級にパス

して日本語で2年間の予備教育を受け、どこの大学に合格出来るかと待ち焦がれている学生さん達をわが家に招いて私的なオリエンテーションをしてきました。

例えば、日本人の家へ招かれた時の挨拶や作法を、実際にわが家へ入ることから各自が練習し、約束の取り方や、礼状の書き方等も手ほどきしました。

いよいよスピーチ・コンテストが近付き、研究科からも元校長先生だった人が出場者に決まり、クラスをあげてスピーチの練習に取り組みました。結果は、サラワク州からの高校2年の女生徒が流れるように自然な日本語で最優秀賞に輝き、わが研究科代表は最年長者賞をいただき、元教え子達の喝采を浴びました。

この大会を通してわかったことは、マレーシアには全寮制の高校もあり、そこでは、国際交流基金の日本語教師養成講座を終えた現地人の先生方が、外国語の選択科目の一つの日本語を教えており、今回の優秀賞受賞者も育てていました。10年前でも、このような日本語教師がマレーシア全土の9高校に25名程、大学レベルでは10数名も在職していたのです。

任期を終えて帰国する際に、今度は国費留学生達の日本でのコンサルタント役を依頼され、交流は続いています。



# \*わたしのくんと生活\*



デリヤ アキバー  
（中国新疆ウイグル自治区）  
日本語を楽しむ会（小平市）

私は、2005年の7月に、父が勉強中の日本に母と一緒に、新疆ウイグル自治区から来ました。今は、小平市立第五中学校で勉強しています。現在3年生です。

## \*新疆ウイグル自治区

中華人民共和国の西端にある新疆ウイグル自治区は、一般に東アジアの一部として定義されています。その領域は古くはインド・ヨーロッパ諸族の言葉話す人が定住していたようです。モンゴル高原に栄えた遊牧ウイグル帝国が840年に崩壊した後、天山山脈に移動したウイグル人たちはウイグル王国を建国し、同時に別のテュルク（トルコ）系民族がタリム（トルコ）盆地にカラ・ハン朝を興しました。この結果、新疆の住民は、テュルク化に向かい、カラ・ハン朝がイスラム教に改宗すると、イスラム化が進みました。

地理的にアジア大陸の内部に位置する影響から、年平均降水量はわずか145mmと乾燥した気候となっています。日本の降水量に比べるとわずか1%にすぎません。現在新疆では、水資源と砂漠化が一番大きな課題となっています。

新疆ウイグル自治区のほぼ中央にそびえる天山山脈を背骨とし、天山山脈と北のアルタイ山脈の間にジュンガル盆地、天山山脈と南のクンルン山脈の間のタリム盆地が広がっています。タリム盆地の中心はタクラマカン砂漠で、天山山脈南麓とクンルン山脈北麓に沿ってオアシス都市がほぼ連なって点在しています。クンルン山脈と天山山脈などからは、氷河などを主要水源とする河川が570本ほど流れていますが、そのほとんどは海まで流れない内陸河川です。新疆ウイグル自治区では、最長の川はタリム川で全長2137kmです。

昔から主要な東西交易路（シルクロード）は、中国・敦煌付近から天山山脈南麓を通り、パミール高原などを越えてフェルガナ盆地（ウズベキスタン）に至る経路

を辿っています。

## \*ウイグル人の生活

新疆ウイグル自治区の住民の約45%はウイグル族が占めています。他にも漢族、カザフ族、回族、モンゴル族など13民族が居住しています。多民族文化が混ざっている社会です。

私のふるさとの住民はほとんどイスラム教を信仰しているので、生活習慣は仏教を信仰する国の人々とはだいぶ大きく違うところがあります。たとえば、食事面でウイグルの人々は豚の肉を食べることはイスラム教によって禁止されています。それから、普通のウイグルの人々はラムダンという断食を行います。断食月では朝ごはんを食べたら、ずっと日没まで物を食べません。そして、1年に2回祭りを行います。これら年2回の祭りは、全世界のイスラム教を信仰している人々が同時に一緒に行う祭りです。以上の三点は、イスラム教を信仰する人々と別の宗教を信仰する人々の違うところ です。

## \*子供たちの生活

ウイグルでは、日本と同じ9年の義務教育があります。一般のウイグルの子供たちはこの9年間の義務教育を受けています。しかし、この9年間の義務教育を受けていない子供たちもいます。彼らは家庭の経済事情によって家で父母の仕事を手伝っています。日本では、9年間の義務教育を受けることのできる子供たちはほとんど100%です。ウイグルに比べるとこれは本当にうらやましいことだと思います。



# 日本語ボランティアは日本語を母語としない子どもたちのために何ができるか

11月12日(日)の午後、高層ビルの間から真っ白な富士山が望める「しんじゅく多文化共生プラザ」で開催。各地から50名近くの人々が、子ども支援の経験が長く、また深く研究している団体の具体的な活動報告を聞き、学ぼうと集まりました。

● 中野区国際交流協会(ANIC)の専門員、中山真理子さんの報告。

ANICでは子どもの支援を2002年に始めた。子どもたちが増えてきたので、「夏休みクラス」、「春休みクラス」が行われ、ついで「子どものクラス」を新設。

現在、子どもクラスに35人。「夏休みクラス」、派遣、取出し授業などの形で、回数・時間等の制限はなく、可能な限り支援している。

ANICの支援システムは、各クラスが有機的に連携し、短期間で最大の効果を上げるよう、一対一の対応をとる。

ANICのボランティア養成講座・実践講座を経たボランティアが100人。子どもは、教育委員会、学校(校長・担任)保護者から依頼される。

● 次は、大田区で活動する「日本語ぐるりっと」の飯島時子さん。

自分たちの目指す教材を作ろうと1998年に「日本語ぐるりっと」を立ち上げ、1999年に『にほんごワークブック』(凡人社)を出版。2001年文科省が「子どものための日本語教育カリキュラム」作成の際、ボランティアの視

点でカリキュラム開発へ提言。2002年に念願の教室を開設、教室指導(月・水・金の午前、午後)を開始。2004年から派遣指導に関わる。

現在、20名ほどが参加。中国、フィリピンの子が多い。原則、個人指導対応。1人1人の状況を把握し見守れる、この形を守っていきたい。

指導内容は、学校生活に適應するための初期指導、学校生活を円滑にするための日本語・教科学習のための日本語を学習させる適應指導、教科を通しての日本語指導を含む教科指導の三段階。初期指導、適應指導がサポートの中心で、そのための教材『にほんごワークブック』は、初期段階とくに高学年児童(中学生)に系統立てた仕組みの日本語を教えたいと考えて作成。文化省の「にほんごをまなぼう」とセットで勉強するとよい。初期指導の目安は20~30時間、適應指導は80~100時間、教科指導は200時間程度必要。学校への派遣指導は、教育委員会が予算措置をし、教育委員会・学校長・副校長から依頼される。

● 最後に、墨田区の「外国人生徒学習支援の会(FSC)」の藤田京子さん。

20年ほど前、墨田区の中学校に中国引揚げの生徒がたくさん入り、日本語指導、適應指導に関わり続けたが、その教室が強引に閉鎖された。6年ほどのブランクで、子どもたちのひどい状態に、保護司からこのままでは非行化の



恐れもあると、日本語支援を頼まれ、再び子どもたちと向き合う。中学生を中心に15~16人集まった。1人では無理で、墨田区の新聞に講習会の記事を掲載、ボランティアを募り36人が参加。活動日は水曜日4時からと、土曜日午前中。現在、27~28名が学習。部活がある子どもには時間を合わせて学習。学習指導や教材の検討時間、整理する時間がなく厳しい状況。この状況を行政に認識させ、肩代わりをさせるべく、教育長や区長にも訴えている。3ヶ月間集中的に行えば、日本語初級はマスターできると、教育委員会にも学習の場の提供を常に訴えている。

その後、具体的な学習方法や教材など苦心した話に及びました。

● 会場から村上明さん(八王子にほんごの会)が、中学校の協力を得て部活「日本語」がスタートしたこと、小寺良子さん(町田市)から10月に開催された文化庁地域日本語教育支援事業の町田国際交流センター主催の研修会と「町田にほんごスクールネット」などの報告がありました。

(林川)

足立区で最大、最古の日本語教室

# かけはし

代表 木下 俊輔(足立区)

足立区には現在13の日本語教室がありますが、「かけはし」は明年で活動開始20周年を迎える区内で最古、最大の日本語教室です。毎週月曜日の午前10時から12時という学習時間設定の故が、学習者の大半が日本人を配偶者とする家庭の主婦層ですが、その他ビジネスマン・留学生・語学教師等多様多様です。

所属するボランティアは20数名ですが、学習希望者数が多く理想とするマンツーマン学習は難しいのが現状です。学習者の日本語能力は、日常の挨拶か



ら始める入門者から日本語能力受験対策班、能力試験1、2級合格後も更に日本語能力アップを目指す人まで色々です。

教室の雰囲気楽しい、同国人と心置きなく母語でおしゃべりができる等の理由からか、5年～10年間も在籍している人が多数います。帰国後、習得した日本語を仕事に生かしていますという、うれしい便りを受け取ることもあ

ります。

日本の文化・習慣・伝統、更に学習者各国の民族性を互いに理解しあう必要があります。そこで日本語学習以外に和服や浴衣の着付け・茶道・カルタとり大会・折り紙・お花見等

の日本的な催しから各国の料理教室、お国自慢の歌やダンス大会等を開催しています。

足立区は外国人居住者が都内最多ではないかと思いますが、区役所には区民課多文化共生担当の新セクションが発足しましたので、今後は区が主催する各種外国人関連行事に積極的に協力し、日本語学習を通じて相互理解に貢献したいと考えています。

## 会員団体紹介

# Nice to Meet You

町田市文化・国際交流財団は、2004年4月に町田市民ホールと町田国際協会が合併し誕生したもので、町田国際交流センターは国際部門を担っています。在住外国人に対する日本語指導や生活相談をはじめとした外国人支援や、バスツアー、留学生との交流、外国人児童・生徒に対する学習支援など多岐にわたる事業に取り組んでいます。

今回の研修会は、「増え続ける外国籍児童・生徒」をテーマに学校や教育委員会、日本語ボランティア等がこの問題に対処するために、いかにネットワークを構築していくのか、という課題に取り組んだものです。

## nice to meet you

日本語支援者コーディネーター研修会を開催しました

# 町田国際交流センター

藤代 将人(町田市)

研修会は文化庁の支援を受け、国際日本語普及協会との共催により、10月14日(土)、17日(火)、18日(水)、28日(土)の日程で行われ、町田で日本語支援に携わる関係者延べ180名が参加しました。

研修では、鶴川第二小学校での研究授業や先進的な取り組みとして横浜市泉区いちょう団地周辺、新宿区の実践事例の紹介など充実したプログラムになりました。

外国籍児童・生徒の日本語指導・教科指導等は、家庭、学校、日本語ボランティア等がそれぞれ大切な役割を担っていますが、今後は今まで以上に情



報を共有し、連携や協力をより一層強固なものとすることが重要です。

今回の研修会では関係者が一堂に集まり、一つの課題に対して真摯に論議し、お互いに顔の見える関係がつけられたことはネットワークづくりの第一歩として大変有意義であったといえるでしょう。

学習者の声

僕を変えた日本

梁財玉（ヤン・ゼオック）／韓国  
LTC友の会（杉並区）

痛み、これからどうやって生きていけばよいのか、毎日襲ってくる恐怖感でものすごく落ち込んでいたのです。

その様な時、僕に生きる力を与えてくれたのはLTCの方々だったのです。或る日、突然、伝え聞いたLTCの人達がお見舞いに来てくれたのでした。本当に驚きました。僕のことをあまり知らない、馴染みもない筈なのにただLTCに縁が少しあるだけなのに、僕に笑顔でやさしく、親切にして下さいました。本当に嬉しかったのを覚えています。そして僕はすごく考えたのでした。「何で俺にこんなすごいことをしてくれるんだろうか」ということをです。日本人の素晴らしさを初めて肌で感じて、僕は変わりました。



僕にとって日本という国のイメージは最初はあまり良くなかったのです。それは恐らく殆ど韓国人がそうだろうと思うけど、昔、植民地の歴史の影響があまりにも大きくて、日本という国は絶対いけない国、私たちの先祖を苦しめた国だから許せないと思っていたのでした。そんな僕が日本に来たのは1999年の9月、日本学校へ入学するためです。最初のうちは学校の勉強やアルバイトのせいでものごと忙しく、日本人に接するチャンスがありませんでした。

初めて日本人と話すことが出来たのはLTCに通い始めてからですが、正直言って会話が半分も分からなかったし、あまり楽しめなかったのです。

約一ヶ月半が過ぎ、大晦日になった時、僕の人生を大きく変えてしまう事件に遭遇しました。僕は駅のホームから落ちてしまい、電車に足をひかれ、右足を失ってしまったのです。気がついた時は手術を受け、病院のベッドの上でした。一日中殆んど眠れないくらい

ボランティアの声

平塚 裕  
LTC友の会（杉並区）

J君のこと

1997年の春、私にとっては12人目の学習者で初めての非アジア系の人、アメリカの青年J君に会いました。最初の日、彼はいきなり、日本語を教える為の勉強をしたことがあるか、なぜボランティアで日本語を教えるのか、他にもボランティアをしたことがあるのか等と、矢継ぎ早に質問をしてきました。このような質問をされたことのない私は正直言って面食らってしまったのです。

J君は母国に帰る時、一冊の絵本『大きな木』（S・シルヴァスタイン作）日本語訳をプレゼントしてくれました。「Dear 平塚さん、長い間、丁寧に教えて頂き、誠に有難うございます。毎回この本を読む度に感動させられますが、やはり日本語で読むと違う感じがしますね。しかし、言葉が違って意味は十分に通じますので読んで頂きたいと思います。色々とお世話になりました。Thank you」という文が添えられていました。

内容は一本のリンゴの木とその木に関わった男の人の一生の話でした。非常に示唆に富んだ内容でしたが、私には「大きな木」という題名が今一つ納得出来ませんでした。「君の「やはり日本語で読むと...」という文も気になり、いつか原文のまま読んでみようと思っておりましたところ、その後偶然にも英語版を見つけました。題名は『The Giving Tree』で、J君が書いた通り、作者の思いが直接感じられ、改めて感動しました。

J君が帰国して10年近く経ち、多くの国々の人達と接してきましたけれど、彼が一つの言葉、一つの文章の意味を深く考えるキッカケを作ってくれたのだと、とても感謝しています。他国の言葉を知ろうということは、単に言葉の意味を理解するだけでは不十分で、その言葉の背景にあるものの見方・考え方・価値観、おかげさ言えば文化を知らなければ、真の理解は難しいのではなからうかと思っています。





### ニュースレターの記事をお待ちしています

ニュースレターは3ヶ月毎に発行しています。団体・個人にかかわらず、日本語学習支援・日本語ボランティア活動に関する意見・紹介・情報などの記事を是非お寄せ下さい。掲載記事についてのご意見・希望も歓迎します。TNVN NL編集担当宛にお送り下さい。

### TNVN スタッフ募集 !!

TNVNの事務局スタッフ・ニュースレター編集員となってTNVNスタッフと一緒にボランティアでご協力いただけませんか。TNVN事務局までご一報をお待ちしています。

### TNVN への入会をお待ちしています

詳細はTNVN事務局まで「活動・入会案内」を郵便でご請求下さい。(送料90円切手同封)

TNVN東京日本語ボランティアネットワークはボランティア日本語学習支援活動を行っている団体のネットワークです。TNVNの会員はそれぞれ地域での日本語学習支援活動を通し、言葉のため日常生活に不自由を感じている外国人などを、隣人として支援しています。TNVNは会員への情報提供・会員相互の情報交換、および外部との情報発信を行い、活動の活性化を図ります。

### 東京日本語ボランティア ネットワーク事務局の活動

日時：毎週金曜日

第1、第3、第5 金曜日 / 午後2時～4時  
第2、第4 金曜日 / 午後2時～6時

#### 場所

東京ボランティア・市民活動センター  
JR、地下鉄(東西線・有楽町線・南北線・大江戸線 - 出口B2b)飯田橋駅下車  
セントラルプラザビル 10F ロビー

#### 日本語ボランティア相談窓口

日本語ボランティアの活動についてのご相談・ご質問にベテランスタッフがお応えしています。電話でご確認の上、気軽にお越し下さい。また、メールでのお問い合わせにもお応えしています。ご意見もお待ちしています。

〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1  
東京ボランティア・市民活動センター  
メールボックス No.4

TEL : 03-3235-1171

(呼出：金曜日活動時間帯のみ)

FAX : 03-3235-0050

E-mail : webadmin@tnvn.jp

URL : <http://www.tnvn.jp/>

郵便局払込

口座番号：00100-1-719259

加入者名：東京日本語ボランティア・ネットワーク

#### 新会員紹介

正会員

LTC友の会・高円寺(杉並区)

会員数(2006年11月10日現在)

正会員：79団体 協力会員：47名

賛助会員：4団体

編集 / 岩佐 幹彦、大木 冬冬、岡田 美奈子、小川 伶子、梶村 勝利、床呂 英一、西岡 暉純、林川 玲子、福井 芳野  
レイアウト / 鶴田 環恵

## Column

### ❖ パソコンの失敗で感じたこと

私は96年からTNVNの運営委員を務め、現在は会計とニュース編集委員をしている。私も情報の発信をと思いがちなかなかできず、梶村さんや林川さんが次々に寄稿しているのにと申し訳なく思っている。そこで、恥ずかしながらパソコンで失敗した話を披露したい。

今年8月に4年間使っていたパソコンが故障し、新しいものに買い換えた。故障の原因が馬鹿げている。全然掃除をしていなかったため、キーボードに埃がたまり、吹き飛ばすスプレーを買ったが、出てきたのは風でなく、水だった。説明書を読んだら、「冷却水が出るので45度以上には傾けないこと」と。結

局買い換えたが、次のようなことを感じた。

1. パソコンは水に弱い。
2. 重要な注意は説明書でなく、外箱に大きく書くべきだ。
3. 故障のため中古品買取にもならず、修理費も買値に近い10万円と高い。
4. 故障を考え、外付けディスクを買って自分でコピーしておくべきだ。ディスクはCDより高いが、CD3枚程度の容積でパソコン1台の内容が皆入るのは魅力。40ギガで1万2千円。
5. 修理見積もりに出す前に業者にコピーを頼み、6千円かかった。

(床呂 英一)

### ❖ お見合いも国際化

時間があれば連れ合いとの散策が日課となる私ですが、先日の散歩の折、一軒の店舗兼事務所のガラス窓に、「結婚相談所」と、案内書きが貼られているのを発見しました。

私のような世代を感じる結婚相談のイメージは、「近所の世話好きな人=お見合い」ですが、街中に結婚相談の看板を見たのは初めてです。店舗の雰囲気中国系居住者の方ということもあり、直接お話を伺ってみることにしました。

対応された中国系外国人の方は、「私たちはブライダル営業団体に加盟をし、きちんと許可を得て営業を行っています。これは日本のブライダル企業と同じです。私たちは中国

本土の人をいきなり日本人に紹介することはありません。先ず日本に在住している中国人を紹介しています。現在日本には多くの中国人が来日、居住していますが、中国人、日本人ともに多くの方に登録をいただいています。」との事でした。

何年か前に「農村の花嫁」として東南アジアの諸国から女性が来日したことがありましたが、2004年度の厚生省調べによると日本人の国際結婚の比率は、15組に1組、(全国平均6.6%、東京都9.5%)の割合です。街中での看板から外国籍住民の定住化の一端をみました。

(い)